

病害虫発生予察 6月月報

(生育概況及び病害虫の調査結果)

令和8年6月の気象表(長野地方気象台発表)

官 署		平均気温 °C			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長 野	本年	20.1	21.5	21.8	49.0	31.0	26.5	50.1	79.7	42.5
	平年	19.2	20.5	21.6	15.7	35.3	55.1	67.3	54.8	45.6
松 本	本年	19.3	20.6	21.2	71.5	39.0	83.5	47.3	73.5	35.1
	平年	18.9	20.2	21.6	17.5	42.8	54.5	66.2	54.5	45.6
諏 訪	本年	18.4	19.2	20.1	68.5	37.0	196.0	49.3	66.3	28.0
	平年	18.0	19.3	20.6	22.7	59.7	72.7	64.9	53.0	43.4
軽井沢	本年	14.3	15.7	17.0	102.0	84.5	112.0	34.7	64.4	29.5
	平年	14.5	16.1	17.5	29.1	64.4	61.1	60.5	47.3	38.7
飯 田	本年	19.7	21.0	21.2	90.0	41.5	218.5	42.1	61.2	21.8
	平年	19.3	20.7	21.8	33.5	67.4	91.0	61.9	52.4	41.4

※)は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値(資料が欠けていない)と同等に扱う(準正常値)。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。

台風や前線、湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。

また、降水量や風速の記録で、6月としての1位を更新した観測地点があった。

なお、気象庁は6月7日に「関東甲信地方は6月7日頃に梅雨入りしたと見られる。」と発表した。これは平年と同じで、前年より16日遅い梅雨入りであった。(速報値)

1 麦

(1) 生育概況

令和8年産(令和7年播種)の生育概況は、農業試験場ホームページの生育調査にある「麦類の生育状況(令和8年産(令和7年播種))」を参照してください。

農業試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/teirei/index.html>)

(2) 病害虫の発生状況

①麦類の赤かび病

6月上旬の巡回調査における100穂調査では、発病穂率は概ね平年並であった。

②さび病

6月上旬の巡回調査地点における25茎調査では、コムギ赤さび病の発生地点率、発病度は平年と比べ低かった。なお、南信地域及び中信地域では発生はみられなかった。

③うどんこ病

6月上旬の巡回調査では、北信地域の一部で発生がみられたが、発病度、発病地点率は平年と比べ低かった。

④小麦の土壌伝染性ウイルス病(コムギ縞萎縮病、コムギ萎縮病)

中信地域、北信地域では、罹病性品種の作付ほ場の一部で発生がみられた。中信地域では水田への転換などにより、発生面積が前年と比べ減少した(全県の発生面積36.0ha(前年発生面積71.0ha)※病害虫防除部調べ)。

2 水 稲

(1) 生育概況

水稻の生育概況は、農業試験場ホームページの生育調査にある「水稻の生育状況(令和8年度)」を参照してください。

農業試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/teirei/index.html>)

(2) 病害虫の発生状況

①いもち病

アメダスデータを用いた葉いもち感染予測モデル「BLASTAM」によると、6月の感染好適条件の出現頻度は、北信地域では平年と比べ多かったものの、県全体では平年と比べ少なかった(第1表)。

第1表 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件出現回数(6月)

地域	東信	南信	中信	北信	全県
アメダス地点数	5	8	9	5	27
平 年	3.3	6.9	5.0	3.2	18.4
本 年	3	2	0	4	9
平年比(%)	90.9	29.0	—	125.0	48.9

※BLASTAMの判定結果は、JPP-NET(一般社団法人日本植物防疫協会)から引用、平年は2016年から2025年までの平均値

②ニカメイガ

小布施町のフェロモントラップ調査では、第2半旬及び第3半旬にそれぞれ1頭が誘殺されたが、それ以外の期間における誘殺はなかった(第2表)。

上田市の予察灯では、6月の誘殺頭数は概ね平年並であった(第3表)。

第2表 ニカメイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭） 小布施町

月	6月					
半 旬	1	2	3	4	5	6
平 年	0.2	0.1	0.1	0	0.1	0.1
本 年	0	1	1	0	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

第3表 ニカメイガ成虫の予察灯による誘殺消長（頭） 上田市

月	6月					
半 旬	1	2	3	4	5	6
平 年	5.3	6.9	7.5	7.6	4.2	3.3
本 年	10	2	7	8	1	2

平年は2016年から2025年までの平均値

③ヒメトビウンカ

上田市の予察灯では、6月第1半旬から誘殺され、6月第4半旬以降の誘殺頭数は平年と比べ少なかった。

須坂市八重森の予察灯では、6月第2半旬から誘殺され、誘殺頭数はほぼ平年並であった。

なお、その他4か所の予察灯では、6月中の誘殺はなかった。

④イネミズゾウムシ

脱出推定時期は全県で概ね平年並であったが、一部ではやや早い地点もみられた。

6月下旬の巡回調査では、越冬成虫寄生頭数及び被害度は概ね平年並であった。

⑤イネドロオイムシ

6月下旬の巡回調査では、幼虫の確認頭数は東信地域では平年並であったが、県全体では平年と比べ少なかった。被害度は、東信地域では平年と比べやや高かったが、県全体では平年と比べ低かった。

⑥セジロウンカ

県下6か所の予察灯への誘殺はなかった。

⑦トビイロウンカ

県下6か所の予察灯への誘殺はなかった。

⑧斑点米カメムシ類

6月下旬に実施した畦畔でのすくい取り調査（ネット20回振）では、斑点米カメムシ類の捕獲地点率は全県で平年比133.0%とやや高く、1地点当たりの平均捕獲頭数は東信地域及び北信地域で平年と比べ多く、南信地域及び中信地域では平年と比べ少なかった（表4）。種類別では、県内における主要種であるアカヒゲホソミドリカスミカメの捕獲割合が高かった（表5）。

第4表 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り（ネット20回振）による捕獲状況

地域	調査 地点数	捕獲地点率 (%)			1地点当り 平均捕獲頭数（頭）		
		本年	平年	平年比 (%)	本年	平年	平年比 (%)
東信	15	60.0	47.3	126.8	3.8	1.5	253.3
南信	15	73.3	58.9	124.4	2.1	4.0	52.5
中信	17	76.5	63.3	120.9	2.8	8.9	31.5
北信	14	100.0	64.5	155.0	10.4	4.4	236.4
全県	61	77.0	57.9	133.0	4.6	5.2	88.5

平年は2016年から2025年までの平均値

第5表 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り（ネット20回振）による捕獲頭数

地域	調査 地点数	斑点米カメムシ類の捕獲頭数（頭）、捕獲割合（%）					
		計	アカヒゲホ ソミドリカ スミカメ	アカスジカ スミカメ	トゲシホ シメムシ 類	ホソハラカ メムシ	アカヒメハ リカメムシ
東信	15	57	45	4	5	1	2
南信	15	31	28	0	1	2	0
中信	17	47	37	5	2	3	0
北信	14	145	125	13	1	1	5
全県	61	280 (100)	235 (83.9)	22 (7.9)	9 (3.2)	7 (2.5)	7 (2.5)

平年は2016年から2025年までの平均値

県内6か所に設置した予察灯の調査では、主要種であるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生ピークは平年と比べやや早かったものの、誘殺数は概ね平年並であった。一方、アカスジカスミカメの誘殺数は、上田市及び須坂市の2地点で平年と比べ多かったが、その他の地点では平年並～やや多かった。

3 りんご

(1) 病害虫の発生状況

①赤星病

巡回調査では、東信地域の2ほ場でわずか（発病葉率0.2%）に発生がみられた。

②うどんこ病

巡回調査では、発生はみられなかった。

③褐斑病

巡回調査では、東信地域1ほ場、北信地域2ほ場で発生がみられた（発病果そう率0.7～1.3%）。

須坂市（果樹試験場）内の無防除樹での初発は、5月13日に確認された。

④黒星病

巡回調査では、北信地域の1ほ場で幼果に発生がみられた。発病果率は0.7%であった。

⑤斑点落葉病

巡回調査では、北信地域の一部でわずか（寄生葉率は0.3%）に発生がみられた。

⑥アブラムシ類

巡回調査では、県下全域で新梢に発生がみられ、最も発生が多い地点の新梢寄生率は70.0%であった。主な種はユキヤナギアブラムシであった。

⑦キンモンホソガ

巡回調査では、東信地域1ほ場、南信地域1ほ場、北信地域4ほ場で寄生葉（メイン）がみられ、被害葉率は0.2～0.9%であった。

須坂市（果樹試験場）の6月のフェロモントラップ調査では、第3半旬を除き、平年と比べ多かった（第1表）。

第1表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	6月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	57.1	113.9	155.3	110.8	58.3	25.4
前年	71	131	264	105	175	55
本年	174	447	265	54	65	118

平年は2016年から2025年までの平均値

⑧シンクイムシ類

須坂市（果樹試験場）のモモシンクイガのフェロモントラップによる6月の誘殺は、第3半旬が概ね平年並であった以外は、平年と比べ多く誘殺された（第2表）。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	6月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	5.0	10.5	11.5	10.5	7.5	3.5
前年	4	17	48	33	20	6
本年	36	23	14	57	56	16

平年は2016年から2025年までの平均値

⑨ハダニ類

巡回調査では、南信地域、中信地域の一部でリンゴハダニが、また北信地域では広くリンゴハダニ、ナミハダニの発生がみられ始めた。

⑩リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、新梢の被害はみられなかった。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップでは、6月の誘殺はなかった。

4 なし

(1) 病害虫の発生状況

①赤星病

巡回調査では、新たな発生はみられなかった。

②黒星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）の調査結果は、第1、2表のとおりであった。

第1表 果実の発病（%） 高森町（南信農業試験場）

区分	5月			6月			7月	
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日	15日
平年	4.6	16.8	18.7	30.6	39.9	45.2	60.0	71.2
前年	0.1	0.0	0.0	1.8	4.4	6.0	6.9	14.5
本年	2.7	4.1	3.3	7.1	9.4	12.2	13.0	18.3

平年は2016年から2025年までの平均値 「幸水」の殺菌剤無散布樹で調査

第2表 果そう葉の発病 (%) 高森町 (南信農業試験場)

区分	5月			6月		
	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	0.4	3.7	15.7	28.4	43.7	52.3
前年	0.0	0.0	0.5	0.9	7.8	6.5
本年	0.8	0.8	1.6	6.5	12.1	13.1

平年は2016年から2025年までの平均値 「幸水」の殺菌剤無散布樹で調査

③黒斑病

巡回調査では、発生はみられなかった。

④カメムシ類

巡回調査では、園地内への飛来及び被害果はみられなかった。

高森町 (南信農業試験場) のチャバネアオカメムシフェロモントラップへのカメムシ類の誘殺頭数は、平年と比べ少なかった。

第3表 カメムシ類のフェロモントラップへの誘殺頭数 (頭)
高森町 (南信農業試験場)

種 類	月	6月					
	半旬	1	2	3	4	5	6
チャバネ アオカメムシ	平年	2	2	2.6	5.9	4.3	6.4
	前年	3	0	10	52	17	29
	本年	2	0	0	1	3	8
クサギカメムシ	平年	0.2	0.1	0.1	0.1	0.4	0
	前年	0	0	0	0	0	0
	本年	0	0	0	0	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

⑤ナシヒメシンクイ

巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町 (南信農業試験場) でのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ多かった。

第4表 ナシヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺頭数 (頭)
高森町 (南信農業試験場)

区分	6月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0.6	0.9	1.1	1.5	1.8	1.3
前年	1	1.5	1.5	2.5	7	4.5
本年	4.5	9	12.5	14.5	11.5	6

平年は2016年から2025年までの平均値

⑥ハダニ類

巡回調査では、南信地域の1園地でナミハダニ、他の1園地でカンザワハダニの寄生がわずかにみられた程度であった。

5 も も

(1) 病害虫の発生状況

①せん孔細菌病

巡回調査では、東信地域でわずか (発病葉率0.1%) にみられた。

②灰星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

③ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

④モモハモグリガ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

須坂市 (果樹試験場) のフェロモントラップ調査による6月の誘殺は、第5半旬までは平年と比べ少なかったが、第6半旬になって誘殺頭数は平年と比べかなり多くなった (第1表)。

第1表 モモハモグリガのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)
須坂市 (果樹試験場)

区分	6月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	15.2	44.8	10.2	8.0	7.1	13.9
前年	1	5	0	1	0	3
本年	1	2	0	4	2	28

平年は2016年から2025年までの平均値

⑤ハダニ類

巡回調査では、東信地域の1ほ場で発生がみられた（寄生葉率3.3%）。

⑥アブラムシ類

巡回調査では、東信地域の2ほ場で新梢への発生がみられた。寄生新梢率は3.3～10.0%であった。

⑦カメムシ類

巡回調査では、被害果はみられなかった。

6 **ぶどう**

（1）病害虫の発生状況

①うどんこ病

巡回調査では、果房への発病はみられなかった。

②べと病

巡回調査では、新梢および果房への発病はみられなかった。

③灰色かび病

巡回調査では、花穂への発病はみられなかった。

④黒とう病

巡回調査では、新梢葉および花（果）房への発病はみられなかった。

⑤チャノキイロアザミウマ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

⑥クビアカスカシバ

小布施町のフェロモントラップにおける6月の誘殺頭数は、平年と比べ多かった（第1表）。

第1表 クビアカスカシバのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
小布施町

区分	6月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	3.6	15.8	20.8	15.7	18.0	18.0
前年	0	20	42	49	47	47
本年	14	17	37	40	22	26

平年は2016年から2025年までの平均値

7 **かき**

（1）病害虫の発生状況

①うどんこ病

巡回調査では、各調査園地とも発生がみられ、発病葉率は0.5～10%、発病度は0.02～1.0であった。発生初期と考えられた。

②円星落葉病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）での孢子飛散状況は、平年と比べ少なかった（第1表）。

第1表 カキ円星落葉病の子のう孢子の捕捉数 高森町（南信農業試験場）

区分	6月						7月		
半旬	1	2	3	4	5	6	1	2	3
平年	7.5	12.0	22.4	24.0	37.1	51.8	57.9	57.2	70.2
前年	1.3	0.3	0.5	—*	1.6	0.2	19.2	1.0	40.7
本年	1.0	0.4	4.4	3.3	22.1	25.2	61.0	23.0	40.7

表中の数字は18mm×18mm当たりの孢子数（×1000個）

平年は2016年から2025年までの平均値

*は機器不具合による欠測値

③カキクダアザミウマ

巡回調査では、発生はみられなかった。

④ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑤フジコナカイガラムシ

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺は、第3半旬以降は第4半旬の1頭のみであった（第2表）。

第2表 フジコナカイガラムシのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	6月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	13.8	2.5	0.2	0.7	1.2	0.9
前年	0	0	0	0	0	0
本年	2	3	0	1	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

8 野菜・花き

(1) 病害虫の発生状況

① トマトの病害虫

巡回調査における病害については、中信地域の施設（半促成）栽培で灰色かび病、北信地域の施設（半促成）栽培でうどんこ病及び輪紋病の発生がみられた。

虫害は、東信地域の露地栽培でアブラムシ類、オオタバコガ（卵）、中信地域の施設（半促成）栽培でアザミウマ類、北信地域の施設（半促成）栽培でオンシツコナジラミの発生がみられた。

② きゅうりの病害虫

巡回調査における病害については、中信及び北信地域の施設（半促成）栽培でうどんこ病の発生がみられた。

虫害は、全調査ほ場でアザミウマ類の発生がみられたほか、中信地域及び北信地域の施設（半促成）栽培でアブラムシ類、北信地域の露地栽培でオンシツコナジラミの発生がみられた。

③ すいかの病害虫

巡回調査では、中信地域でアブラムシ類の発生がみられた。病害はみられなかった。

④ いちごの病害虫

巡回調査では、東信地域で炭疽病の発生がわずかにみられた。虫害はみられなかった。

⑤ キャベツの病害虫

巡回調査における虫害については、中信地域の一部を除いた全調査ほ場でウワバ類の発生、チョウ目害虫による被害がみられた。そのほか、中信地域の一部でアザミウマ類、北信地域でアブラムシ類の発生がみられた。

病害は、みられなかった。

⑥ ブロッコリーの病害虫

巡回調査における病害については、東信地域の一部のほ場で黒腐病の発生がみられた。

虫害は、全調査ほ場でウワバ類の発生がみられたほか、東信地域の一部のほ場でコナガの発生がみられた。

⑦ はくさいの病害虫

巡回調査における病害については、中信地域の一部のほ場で軟腐病、東信地域の一部のほ場で黒腐病の発生がみられた。

虫害は、みられなかった。

⑧ レタスの病害虫

巡回調査における病害については、中信地域ですそ枯病の発生がみられた。虫害は、みられなかった。

⑨ セルリーの病害虫

巡回調査では、病害虫の発生はみられなかった。

⑩ アスパラガスの病害虫

巡回調査における病害については、北信地域の露地栽培で茎枯病の発生がみられた。

虫害は、北信地域、南信地域の露地及び雨除け栽培、中信地域の露地栽培でアザミウマ類の発生がみられたほか、東信地域の露地栽培でジュウシホシクビナガハムシの発生がみられた。

⑪ たまねぎの病害虫

巡回調査における病害については、中信地域で、黒斑病、白色疫病の発生がみられた。

虫害は、中信地域でアザミウマ類、ネギハモグリバエの発生がみられた。北信地域では作付けが終了していた。

⑫ ねぎの病害虫

巡回調査における病害については、南信地域で黒斑病、さび病の発生がみられた。

虫害は、中信地域及び南信地域でアザミウマ類、ネギハモグリバエ類の寄生がみられ、多発しているほ場もあった。

⑬ コナガ（アブラナ科野菜）

フェロモントラップによる調査での誘殺頭数は、塩尻市、長野市では平年と比べかなり少なかった。

小諸市、上田市、原村、朝日村では、半旬期により誘殺頭数に変動があるものの、全般に平年並～やや少なかった（第1表）。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	11.2	9.9	9.4	8.3	13.5	8.3
		本年	3	2	1	0	0	1
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	19.5	22.3	30.7	35.7	37.7	31.6
		本年	16	26	6	22	26	24
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	0.6	1.3	1.7	2.5	1.8	5.2
		本年	0	1	2	2	0	2
原村判之木 （防除適期決定ほ）	ブロッコリー	平年	27.9	29.5	25.4	33.4	38.9	48.1
		本年	9	28	29	43	26	24
朝日村古見 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	24.9	28.5	16.8	16.3	13.8	13.1
		本年	20	14	7	9	11	18
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	34.7	32.5	25.8	29.5	23.3	28.8
		本年	0	0	2	10	1	5

平年は2016年から2025年までの平均値

朝日村は2019年から2025年までの平均値

⑭オオタバコガ

フェロモントラップによる調査での誘殺頭数は、塩尻市では第5半旬までは概ね平年並であったが、第6半旬は平年と比べ多かった。

小諸市では、6月を通して誘殺頭数は平年と比べかなり多かった。

須坂市では、概ね平年並の誘殺頭数であった（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	3.4	4.2	5.2	2.6	2.3	3.2
		本年	3	6	3	4	4	14
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	8.9	8.0	6.7	6.1	4.4	7.6
		本年	16	22	27	22	48	23
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまい も・水稻	平年	1.2	1.1	1.4	1.1	0.5	0.4
		本年	1	0	0	1	0	2

平年は2016年から2025年までの平均値

⑮ヨトウガ類

フェロモントラップによる調査では、ヨトウガの誘殺頭数は、全般に概ね平年並であった（第3表）。

ハスモンヨトウの誘殺頭数は、塩尻市、須坂市では半旬期により誘殺頭数に変動があるものの全般に平年と比べかなり多く、上田市では概ね平年並であった（第4表）。

シロイチモジヨトウの誘殺頭数は、塩尻市では平年と比べやや多く、長野市では、5月に続き、誘殺はみられなかった（第5表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	8.0	7.8	7.0	6.7	3.5	4.2
		本年	9	8	5	3	6	6
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまい も・水稻	平年	2.6	1.1	1.0	0.2	0.0	0.0
		本年	2	0	2	0	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	2.4	4.6	5.2	8.2	7.6	8.9
		本年	16	14	3	13	11	20
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまい も・水稻	平年	1.0	1.8	3.7	3.8	5.6	6.9
		本年	31	14	1	3	10	11
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	0.0	0.4	0.9	1.7	4.1	4.5
		本年	2	1	0	3	2	0

平年は2016年から2025年までの平均値

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	1.2	0.8	1.5	2.3	1.6	2.0
		本年	4	3	1	3	2	7
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	0.0	1.6	1.5	0.8	1.3	0.1
		本年	0	0	0	0	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

長野市は2018年から2025年までの平均値

⑩アブラムシ類（野菜・花き全般）

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の誘殺頭数は、塩尻市宗賀、塩尻市洗馬では、全般に平年と比べかなり多く、長野市も平年と比べ多かった。

小諸市、上田市では、半旬期により誘殺頭数に変動があるものの、全般に平年並であった（第6表）。

第6表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	15.7	16.6	20.2	20.7	23.4	19.3
		本年	28	51	40	63	47	107
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	40.1	34.3	50.2	57.2	23.1	37.9
		本年	30	21	87	58	37	18
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	21.6	10.9	9.0	7.1	6.9	4.3
		本年	3	3	8	7	5	14
富士見町立沢 （地区発生予察ほ）	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	9	12	20	54	8	5
塩尻市洗馬 （地区発生予察ほ）	レタス	平年	45.3	52.4	49.6	47.6	62.7	79.6
		本年	124	117	58	192	81	316
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	14.9	13.4	15.1	22.7	22.0	15.3
		本年	19	25	34	57	38	45

平年は塩尻市宗賀では2016年から2025年までの平均値

小諸市・塩尻市洗馬・上田市・長野市では2017年から2025年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し

⑪アザミウマ類（ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど）

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺頭数は、上田市では第5半旬までは平年と比べ少なかったが、第6半旬は平年と比べ多かった。

塩尻市では、全般に平年と比べかなり多かった。

長野市では、全般に平年と比べ少なかった（第7表）。

第7表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	3.5	11.6	10.5	11.0	9.9	10.5
		本年	1	5	3	8	5	22
富士見町立沢 (防除適期決定ほ)	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	20	12	33	42	12	31
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	5.6	9.7	7.7	11.7	15.2	25.0
		本年	137	106	27	63	38	280
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	3.5	7.0	8.9	13.5	20.8	30.4
		本年	1	0	1	0	1	3

平年は塩尻市では2017年から2025年までの平均値
 上田市・長野市では2018年から2025年までの平均値
 富士見町は調査地点変更により平年値無し